

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.5  
平成27年5月25日

## 情けは人のためならず!

5月24日付けの中日新聞「ほろほろ通信」を読んでいて、「こんな偶然も起きるんだ・・・」と驚かすにはいられませんでした。5年前にオート三輪が動かなくなっていて困っていた青年を助けると、5年後にその青年に助けられる。

「情けは人のためならず」という諺(ことわざ)があります。この諺の解釈には、1960年代後半、「情けをかけることは、結局はその人のためにならない(のすべきではない)」という間違っただけのものもありましたが、元の意味は、「情けは人のためではなく、いづれは巡って自分に返ってくるのであるから、誰にでも親切にしておいた方がよい」というものです。

下記に示した実話では、巡り巡って自分に返ってきたのではなく、同じ青年から5年後に直接恩返しをされたわけですから、何か運命的なものを感じずにはいられません。青年の感謝の気持ちの強さが、加藤さん兄弟に巡り合わせてくれたのかも知れません。

とにかく、困っている人を見かけたら、見返りを望まず進んで援助の手を差し伸べていきたいものです。

## 全校朝礼の話より(5/25) - 5年前の恩返し

昭和25年ごろ、半田市の加藤文平さん(86)が家業の木工所で働いていた時の話。ドーン!という大きな音がして表に飛び出してみると、オート三輪がアスファルトと砂利道の境目の段差でバウンドして動けなくなっていた。雪が舞い始める中、運転手の青年はぼうぜんとして立ちすくんでいた。

文平さんはお兄さんと二人で車の下にもぐり込んだ。シャフトが損傷している。堅い木材で補強してはどうかと、作業場に戻り試作した。何度も車との間を往復して調整。いつしか吹雪になり、懐中電灯で照らしながらの作業になった。応急措置のかいあり車は再び動きだした。無事に青年が名古屋の会社まで戻れることを心の中で祈って見送った。

それから5年がたったある日のこと。文平さんがお兄さんと名古屋へ材料の仕入れに出掛けた帰り道、横須賀高校の前辺りで路肩にトラックが脱輪してしまった。助けを乞い過ぎゆく車に手を振るが、誰も止まってくれない。

だんだん薄暗くなってきて途方に暮れていたその時だった。いったん通り過ぎた一台の大型トラックがUターンし、2人の前に止まった。そして、ロープで牽引してくれた。

その運転手に帰り際、こう言われて驚いた。「私は昔、あなた方に吹雪の中で助けていただきました。トラックに書かれている『指玉家具作業所』という屋号を見て引き返してきたのです。やっと、あの時の恩返しことができました。」

以来、文平さんのお兄さんは「良いことをすると良いことがある。いつか返ってくるものだ」と口癖のように言い続けていたという。

中日新聞 「ほろほろ通信」より

